
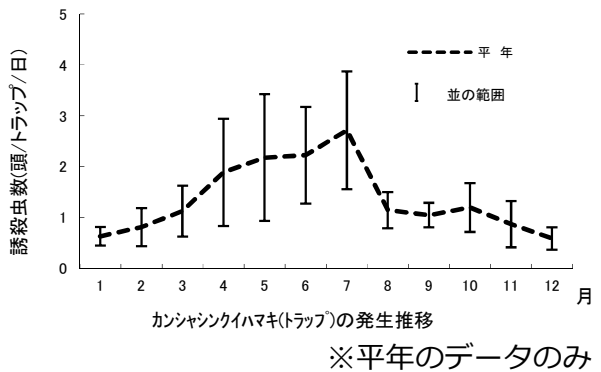
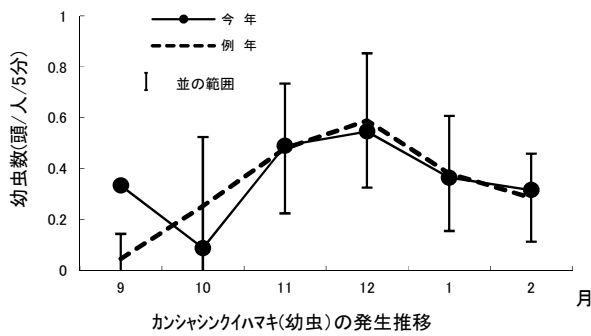
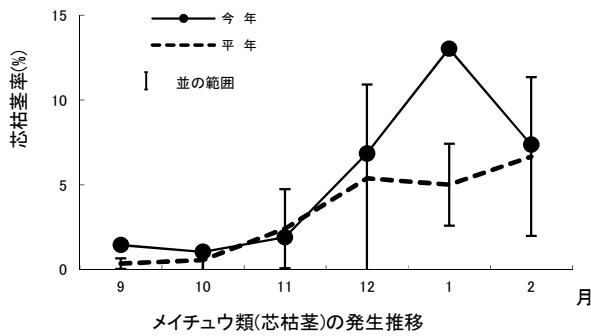


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
2月の発生量(現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



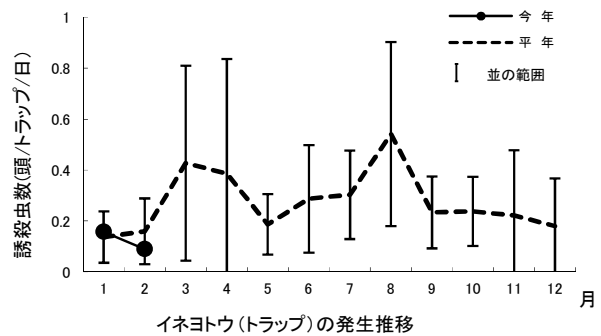
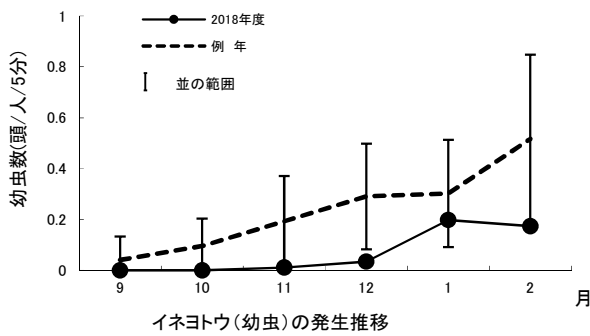
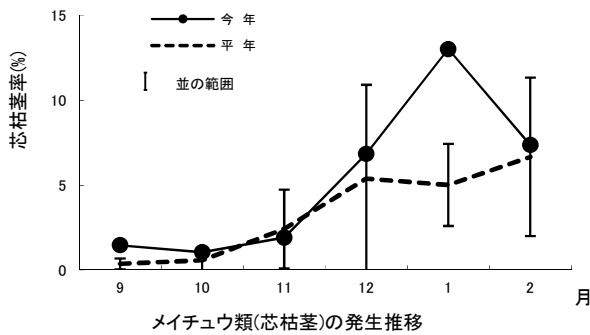
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の63%がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島及び南大東島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
2月の発生量(現況)		並	
3月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。	


発生量の根拠(調査結果)



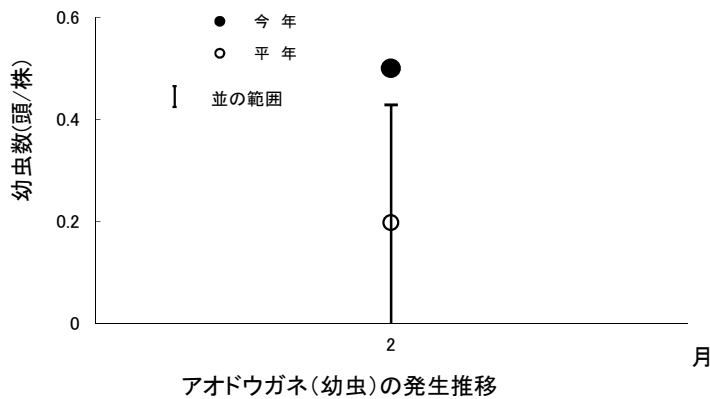
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の37%がイネヨトウであった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類が中発生。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アオドウガネ(幼虫)		
2月の発生量(現況)	やや多		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	黄熟期の幼虫が多いため、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 南部8ほ場で調査
- ・ 7割弱(11/16)の幼虫が黄化していた

防除のポイント

11月下旬から黄化し(黄熟期)、摂食行為をせずに土壤に潜伏する。  
翌年4月から5月に蛹になるため、収穫後直ちに碎土を行い幼虫(蛹)を物理的に防除する。